

令和4年度 第1回清水区地域包括支援センター運営部会 議事録

1 日 時

令和4年7月14日（木） 14時00分～15時10分

2 場 所

清水区役所 3階 第1会議室

3 出席者

（委員）大檐委員、井上委員、中村委員、岩上委員、土屋委員、吉永委員

（地域包括支援センター）9地域包括支援センター

4 事務局

清水区役所 清水福祉事務所 高齢介護課 高齢者福祉係

保健福祉長寿局 地域包括ケア推進本部 地域支え合い推進係

5 傍聴者

0人

6 包括活動報告及び意見交換

1) 委員との意見交換

(1) 蒲原由比地域包括支援センター

蒲原由比包括：

少子高齢化が進んでおり 38%以上の高齢化率になっている。以下について力を入れた
い。予防については認知症フレイル予防について啓発を集いの場に出向いて行っていく
ことや、一昨年から続けている予防講座を継続して続けて出来るだけ意識啓発を進めたい。
昨年度5回行った認知症予防講座の受講者を対象にアフターミーティングをして意
識・生活の様子を確認しながら今後の地域づくりにつながるようにご意見を確認してい
きたい。集いの場以外の活動ができる団体などを確認し出来るだけマッチングできるよ
うな情報を整えていきたい。

井上委員：

圏域の課題のトピックスの中の「金銭トラブルに発展する」とは具体的にどういった内
容で、どのような対応をされているのか？

蒲原由比包括：

日中若い者がおらず、高齢者同士の関りが強い地域でそれが心強い反面、認知症の症状
がでてきたときに、頭では分かっているけど気持ちでは理解ができないことが多く、感情的
になりやすかったり、一方的な被害妄想、経済的に厳しい人になると裕福な方に物を届け
た際のお礼金の額が高額になるなど、大きなトラブルにつながっている。ケアマネや近隣
の方、本人を交えながらケア会議をしたり家族と情報共有をしたりしているが、どうして
も24時間人の目が入っているわけではないため解消は難しい。継続的に事業所の入り方
で情報を共有したり、ケースによっては形だけ防犯カメラを投入してみたりすることも

ある。高齢者夫婦世帯では、去年特に嫉妬妄想が多く激しい夫婦喧嘩になってしまい、警察を交えながら相談をしたり、家族と対応を検討したり医療機関に適切に受診するよう指導したりなどで対応している。

(2) 松原地域包括支援センター

松原包括：

出張相談について、4月6月の年金支給日に清水銀行で出張相談と銀行職員に包括の説明を行い連携の強化を図った。10月支給日も行う予定。

松原主任介護支援専門員連絡会の1回目を開催し、支援困難になっていったケースの情報交換をした。今後は「はーとぼる」と事例検討の勉強会を企画する。

圏域の地域ケア会議ではケアマネと民生委員の関係づくりの会を三保地区で開催。個別事例を共有し、地域課題としてはごみの収集時間に合わせて頼めるヘルパーや、地域資源がない現状を生活支援コーディネーターと共有した。10月は不二見地区で予定。

折戸生涯学習交流館の講座として認知症サポーター養成講座と介護者家族の体験談を聞く会の企画を手伝った。今年度は三保第二小学校で認知症サポーター養成講座を福祉教育で取り上げてもらえるよう提案する。

吉永委員：

去年話を伺った際に、在宅訪問した中で糖尿病の高齢者の方が多かったと言っていたが、どのくらい悪化すると認知につながっていくのか、また何か取り組みはしているのか。

松原包括：

生活支援コーディネーターと一緒に予防についての取り組みをできればと考えている。今のところ受診・服薬・畑仕事など生活上は変わらないため、フレイル予防の意識を高めていきたいと思っている。

井上委員：

静岡市全地域包括の中で、相談件数が6,162件で断トツのトップ。ご苦労様です。チラシやかわら版などで相談件数を増やしていることが素晴らしい。

瀧部会長の事前質問：

認知症総合支援事業にある動画資料というのは教材か、又は作成するものか。

松原包括：

S型等のサロンに行けない時に代わりになるような資料を作ろうと思っていたが、なかなか煮詰まらない。スマホを活用できる教室を開いた方が良いかと話し合っている。

井上委員：

隣にパン屋さんがオープンしているが、効果はあるか。

松原包括：

目印ができて迷子になる人が減った。

(3) 飯田庵原地域包括支援センター

飯田庵原包括：

山間部の庵原地区は高齢化率が多いものの元気な方が多く、買い物ツアーや宅配サービス等を利用しながら賄えている。今後通院等で困る方が出てくるので地域と対応を考えている。昨年多かったのがごみ出しに関する事。地域でごみ出しを行える人がいないかという相談が多く、ヘルパーや資源を使うことが多々あった。生活支援コーディネーターと協力して地域資源マップの作成に力を入れたい。

森委員：

要支援者については毎月の請求を紙媒体で包括に提出する事が多い中、飯田庵原包括から受託される要支援者については、介護システム「カナミック」を使って提出をしている。自分の事業所は「カナミック」のシステムを取り入れて提出しているが、このシステムを使用しなければいけないのか。他の居宅介護事業所ではそのシステム使用が難しく、要支援者の受託を躊躇しているところもある。

飯田庵原包括：

必ずしもカナミックを使わなければならないわけではない。紙媒体での提出も可能なので、柔軟に対応していきたい。

吉永委員：

小学生向け認知症サポーター養成講座は、今年度はこういった形で考えているのか。

飯田庵原：

2年前に行っているが昨年はコロナのため活動が滞っている。認知症サポーター養成講座はオンラインを含め今年度中に開催したい。子供の会のスケジュールも組めないでいる。

(4) 高部地域包括支援センター

高部包括：

民生委員や社協との連携を強くする。個別の対応をきちんとすることを念頭にやっている。認知症のケアパスも配布の段階まで来た。配って終わりにしないため、地域の方と一緒に作り色々な福祉の場で活用したり露出できるようにしていたら時間がかかってしまった。今年度中には配れる。

井上委員：

介護認定を受けたいと相談する人が増えた理由や原因は何か。

高部包括：

「介護保険」という言葉が一般的になっており、チェックリストで済むような人も申請をしようと相談に来ている。その方に合わせた申請をしたい。

中村委員：

生活支援の事業「高部お助け隊」の活動はどのように行っているのか。

高部包括：

毎週月曜日に地区社協が受付をしている。最近是想定していないような依頼が増え、地区の方は困っている。例えば、介護サービスを使うべき人の話し相手、アルコール依存の夫のことで不安定な認知症の妻の話し相手など、ボランティアには荷が重いものが多く、情報を受けてから包括で対応している。

(5) 岡船越地域包括支援センター

岡船越包括：

包括支援センターの知名度が浸透していないと感じるため、周知していくための活動をしたい。主任ケアマネの連絡会を年3回している。地域課題を見つけられるようにケアマネと情報交換し課題に対してどうしたらいいのか課題検討の場を作っていけるよう活動している。

地域の支えあい活動は比較的盛んに行われているが、次世代の担い手不足が予想される。生活支援コーディネーターや地区の方々や担い手育成の支援に取り組んでいる。交流館事業でも担い手を育成する講座にも参加する予定。

岩上委員：

70名のコロナウイルス予防接種支援で苦勞した点はあるか。

岡船越：

地域の会合の中で声掛けした際にアンケートを取ったら、包括って何をするとところ？と書かれている物が多かった。メリットになることであれば口コミで広がるのが分かった。高齢者支援だけしていても広がらず、苦勞よりも学ばせていただいたものが多かった。

大檐委員：

主任介護支援専門員のケアマネとの勉強会は、具体的に何をしたのか。

岡船越：

圏域内に11の事業所がある、うち4か所ほどは一人ケアマネの事業所。ケアマネに何が必要かを当番制で順に考えてもらっており、今月は排泄ケアについて、研修予定。併せて訪問看護とケアマネの意見交換会も予定。10月、2月にも予定している。

瀧部会長の事前質問：

自立支援プラン型地域ケア会議のアドバイザーについて、固定メンバーなのは理由があるのか。今年はどうのような手法で選出するのか。

岡船越：

圏域の中に専門職の方がいるのであれば、まず圏域の方をお願いしたい。日頃の連携の中で適切にアドバイスをもらえそうな方をお願いしているため同じメンバーになっている。薬剤師だけは当番をお願いをしている。

(6) 港南地域包括支援センター

港南包括：

今年度の重点目標は①断らない相談を継続し、相談業務の充実を図る②高齢者の持つ力を引き出すプラン作成を目指す③作成したマップから地域ごとの特性を生かした地域活動の充実を図る、の3点としたい。

その中でも、マップから見えてきた傾向ごとに今年度はフレイル予防と認知症に関する啓発活動を行いたい。またマップ作製を継続、各地域にあるインフォーマルサービスの情報を追記し、地域に必要なインフォーマルサービスや居場所についても生活支援コーディネーターと検討していく。

大檐委員：

圏域の主任ケアマネに定期的に連携会議を開催し、地域の高齢者支援に必要な社会資源の開発を描いているとあるが、具体的に教えてほしい。

港南包括：

2か月に一度主任ケアマネとの研修会を予定している。インフォーマルサービスについてより具体的な情報を知りたいという声がある中で、あったらいいなと思う意見をどんどん聞いていきたい。例えば港南地域だと糖尿病の方が多く、食生活の悪化に伴い透析を受ける方も多い。生活保護を受けている人や栄養面で不安がある方が利用できる「子ども食堂」に代わる「大人の食堂」のようなものがあったらいいなどの意見がある。自立支援型プラン会議を充実させることで、本当に必要なものを考えていきたい。

井上委員：

インフォーマルサービスについて、既存のものを活用するよりも、あったらいいなと思うものを出していくイメージなのか？

港南包括：

既存の活動も大事にしたい。コロナにより地域の方と接する機会が減った。まずは既存の資源をより知ったうえで新しいものを考えていけたら良いと思っている。

(7) 両河内地域包括支援センター

両河内包括：

高齢化率 45%と高く、8050 問題が支援困難事例として存在しているため、障害者の支援、機関等との意見交換会や研修会を開催することで、地域の課題解決とケアマネの資質向上をつなげていきたい。おむつバンク、自主運行バスの課題解決も継続。現在、大平地区のS型がスタッフ不足で休止状態なので、圏域内の福祉施設と協力しS型に変わる取り組みを行いたい。

森委員：

おむつバンク、自主運行バスで抱える課題とは何か。

両河内包括：

おむつバンクは周知が足りていない。自主運行バスは独居高齢者の唯一の移動手段だが、自力で乗るのが決まりなので、リハビリステーションセンターの人に協力してもらい、運転手に介助方法を学んでもらった。今年は認知症サポーター養成講座を受けてもらい、乗客で認知症かなと思われる人がいたら包括に連絡するよう伝えている。

岩上委員：

高齢者向けのおむつバンクは全国的にも行われているのか。またやってみて、どれくらい集まって配布できたのか。

両河内包括：

それなりに集まっている。適宜困った方からの連絡があれば対応。ローカルな取り組み。昨年は圏域内だけだったが、今年は社協からの寄付もあった。

(8) 興津川地域包括支援センター

興津川包括：

コロナの影響により、昨年度 S 型ディサービスで事例紹介による認知症予防の促しは 1 か所に留まっており、参加する方の様子は、民生委員の S 型ボランティアの代表から伺う程度であった。今年度は、S 型ディサービスの場に参加し、小難しい話ではなく、認知症についての簡単な紹介、対応のいい例悪い例を寸劇形式で公演し始めており好評をいただいている。コロナウイルスによって途切れてしまった関係性の再構築を図り、早期相談に繋げていきたい

中村委員：

劇団興津川は市内どこでも開催して貰えるのか。

興津川包括：

まだ芸達者のものがない。第一歩を踏み始めたところなのでまずは地域の方に向けてと考えている。そういった話が上がるのはありがたい。

森委員：

県営・市営住宅の 4、5 階で、エレベーターがついてない問題等の相談はあるか。

興津川包括：

県営団地でエレベーターがある団地は 1 つ。市営団地 3 つのうち 1 つにエレベーターがある。低階層に引っ越さないとダメかなと相談を受けたことはある。抽選の仕方を伝えるなど、件数は多くはないが、相談があった時には個別に対応している。

(9) 港北包括支援センター

港北包括：

「自宅ですっとミーティング」について、徘徊高齢者の声掛け模擬訓練を通じて地域での取り組みを検討中。地域の方のモチベーションが低下しないよう、認知症サポーター養

成講座を2回に分けて行い、その様子をYouTubeで限定配信。これは地域の方からのアイデアである。声掛け訓練後の自宅ですっとミーティングでは、自分たちの組織でどのような取り組みができるか、他の地区にどのように水平展開していくかの議論にまで及んだ。昨年度とは全く違う視点での自身の地域課題として皆が取り組んでいる様子を感じた。

大檐委員：

自立支援プラン型で事例集の作成とあるがどんな事例がある？

港北包括：

まだ作成出来ていないが、今までの自立支援プラン型で出た事例を簡単に絵に表して分かりやすく状態図、アドバイザーの言葉を書き、視覚的に確認しやすいように冊子としてまとめたいと思っている。

瀧部会長からの事前質問：

あらゆるSOSを受け止めるのも重要ですが問題意識が低い住民をどのように拾うか、問題が潜在化する前に拾い上げるにはどうすれば良いか。

港北包括：

若い世代への周知活動、年代関係なく声掛けを行っている。今でなくても将来的に、ご家族についてどうですか、など。そこから自身や家族のことについて意識が発展できるように声掛けしており、早めに課題として捉えてもらえたらと思っている。

井上委員：

ゴミ屋敷など、なかなか解決できてない事に対し、必要なものがあれば教えて欲しい。

港北包括：

ゴミ屋敷は複雑な事情が重なって結果としてゴミ屋敷になっている。行政の縦割りがもう少し横で繋がって欲しいと思う。高齢でこういう課題があった時に、関係機関の人達が動いてくれると良いなと感じた。

(10) 全体を通じて

事務局（岩崎）：

事前に委員に全体に質問したい内容があるか確認したところ、森委員から「重層的支援体制に向けて行政・各包括が取り組んでいることを教えてください」と質問があった。

静岡市としては関係部署（障害・高齢）が一堂に会するのは難しいため、専門部会に地域包括ケア推進本部が出て意見を出している。今年度は関係課も入った事例検討会をする動きがある。また皆さんに何かの形で伝えたいと思っている。

本日、緊急ケース対応で欠席となった有度地域包括支援センターに対し、各委員からの意見や質問は無いとのことで、全ての意見交換を終わらせていただきます。